

人生ハンド仏句

仏壇の必要性

住職 谷川寛俊

檀信徒から、このようなことを耳にしました：「自分の家は分家して独立したので、この家では私が初代であり、私がお先祖です。ですからホトケ（故人）はいないので、まだ仏壇は必要ありません」と。皆さんは如何思われますか？もしそうだとすれば、父母あるいは祖父母、曾祖父母と連綿と続く命の継承をどの様に説明すればよいのでしょうか？ホトケ（故人）がない。先祖は自分だと考えることは、仏教的に言う「間違っている」と言わざるを得ません。たとえ分家したとしても、連綿と続く先祖様があったればこそその自分の命です。ご先祖様が繋いで下さったから、自分もこの世に生を受ける事が出来たのですから、家にホトケ（故人）がないという考え方は間違いで、誰が考えても分かりそうなものなのですが…。そこが分からない檀信徒が多い現実もあります。大変残念なことです。



第168号
H. 28. 3. 1
(毎月1日発行)

また一方では、ある熱心な分家の檀信徒がおられます。そこは分家でありながら、普段から家族揃ってお寺へ熱心にお参りされ、また信仰生活をよくご理解頂き、真成寺にも大変協力して下さいておられます。その分家である檀信徒は、今から四十年ほど前に分家したのですが、すぐに御本尊と日蓮大聖人ならびに、諸仏諸菩薩をお祀りなされました。そして毎月のお参りでは、ご夫婦そろって仏壇の前に整列し、熟達した御経を朗々と唱えておられます。そのご両親の後ろ姿を見て育った三人の子供達も神仏を敬愛し、合掌の姿が自然に身に付いているのです。まさに、檀信徒のお手本といっても過言ではないご家族なのです。

過日、そのお宅へ御回向に伺いました。いつものようにご夫婦と一緒に御回向を捧げ、お茶を一服頂戴していた時のことです。ご主人が一冊の御経本を差し出されました。見れば、一般の檀信徒がお持ちになつておられる薄い

「人生ハンド仏句」と打ち込んで頂ければ、ホームページにつながります。

編集・発行
玉蓮山 真成寺
編集部 谷川久仁子
TEL・FAX 0765-22-2268
携帯 080-3744-2523
こちらの番号でもお寺につながります。

御経本ではなく、我々僧侶が拝読する時に持参する細かい字で書かれている御経本でした。そしてご主人が仰いました：「仏壇でお唱えする御経本は、こちらの御経本で宜しいでしょうか？毎朝夕、この一冊全とお唱えさせて頂いているのですが、ご先祖様は喜んでおられるでしょうか？」と。これには、驚きとともに汗顔の至りでした。

そこで分家の皆さんにお伝えさせて頂きます。特に高価な仏壇ではなくても、俗に言うミカン箱で作った手作りの仏壇でも良いのです。仏壇は仏壇です。その中に大聖人が魂を込めて置かれた「お曼荼羅御本尊」をお祀りされれば、誰が何と言おうが立派な仏壇です。そして、ご両親が既に亡くなつておられれば、お位牌を祀り報恩感謝の念を表せるなら言う事ないでしょう。供養させて頂くという心持ちは大事なのです。世間を見渡せば、立派なお仏壇を安置していながら、香華も線香も手向けず、礼拝もせず、疎かに

なさつておられる檀信徒も少なくありません。今月は春のお彼岸です。親先祖を偲んで、一心に報恩感謝の気持ちを念じて下さい。

